横 浜 市 記 者 発 表 資 料

令和元年７月 17 日
消 防 局 予 防 課
消 防 局 救 急 課

令和元年上半期火災・救急概況（速報）

～平成 31 年１月１日から令和元年６月 30 日まで～

① こんろによる火災が増加！こんろによる火災の死者･負傷者も増加！

・ **こんろによる火災件数は、前年よりも 14 件増加しました**。こんろによる火災の死者は前年よりも２人、負傷者は８人増加しています。

・ 住宅火災における出火原因のトップはこんろによる火災で、**揚げ物等を調理中にその場を離れたために出火するケースが多く発生**しています。

② 救急出場件数、搬送人員ともに、過去最多を記録した昨年を上回るペースで増加！

・ 令和元年上半期の救急出場件数は、102,138 件で**前年同期と比べて 3,291 件（3.3%）の増加、**搬送人員は、87,766 人で**前年同期と比べて 2,474 人（2.9%）増加し、それぞれ過去最多**となりました。

・ 特に１月は救急出場件数が大幅に増加（20,886 件、前年同期比 1,473 件、7.6%増）し、ひと月の救急出場件数が初めて２万件を突破しました。

１ 火災の概況（詳細は、別添資料１参照）※過去10年間の平均は平成21年から平成30年までとしています。

(1) 火災件数

・令和元年上半期の火災件数は372件となり、前年同期と比べて、３件(0.8%)増加しました。【図１】
過去10年間平均473件と比べると、101件(△21.4%)減少しました。

・住宅火災の火災件数は141件となり、前年同期と比べて10件(7.6%)増加しました。【図２】
過去10年間の平均値（177件）と比べると、36件(△20.3%)減少しました。

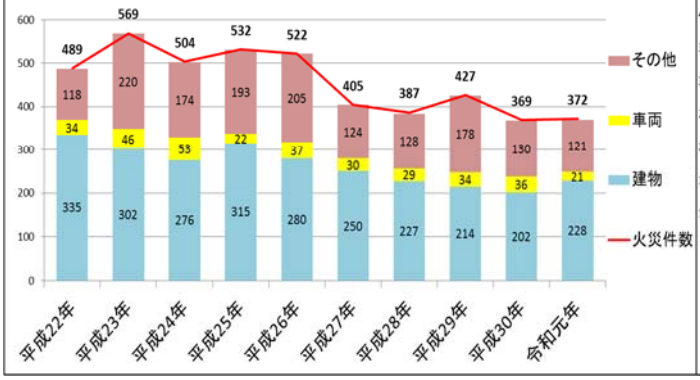
・建物火災（飲食店、店舗等の火災も含まれます。）全体における住宅火災の割合は６割を超え、高い水準が続いています。【図２】

(2) 火災種別

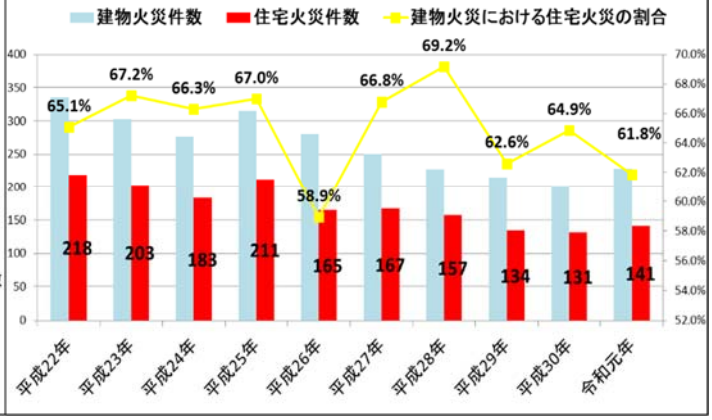
・火災種別の内訳は、建物火災228件(61.3%)、林野火災１件（0.3%）車両火災21件(5.6%)、その他の火災(屋外で発生したごみ、立木、雑草などの火災)121件(32.5%)、船舶火災１件(0.3%)となりました。【図１】

・前年同期と比べて建物火災26件(12.9%)、林野火災１件(100.0%)の増加、車両火災15件(△41.7%)、その他の火災９件(△6.9%)の減少、船舶火災は前年同期と同数となりました。

【図１】 火災種別ごとの推移(上半期)
棒グラフは、建物、車両、その他の火災のみ表示



【図２】 建物火災における住宅火災の割合(上半期)

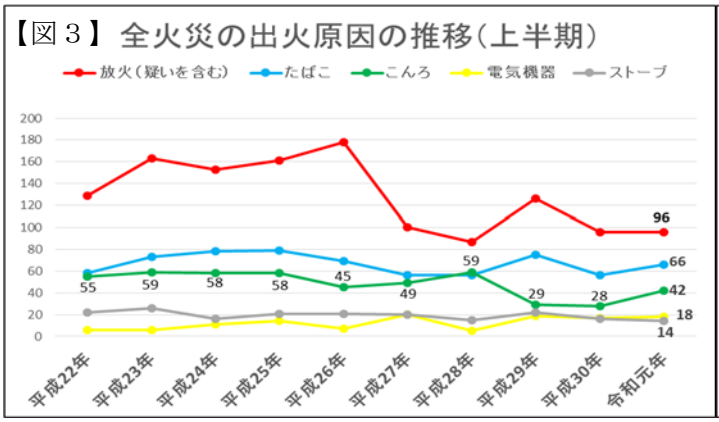


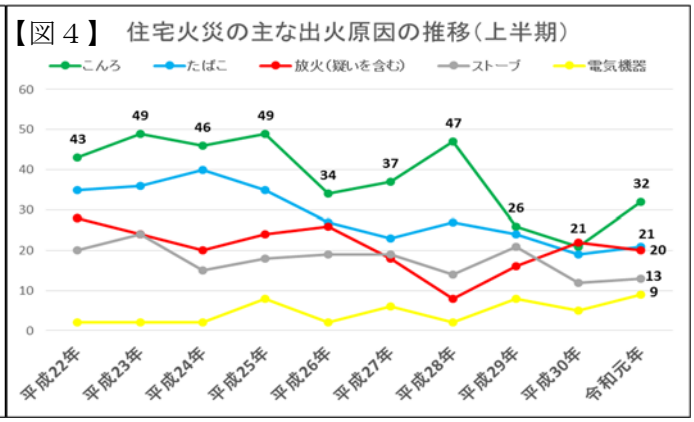
(3)　主な出火原因

・出火原因の上位は、「放火(疑いを含む)」96件(25.8%)、「たばこ」66件(17.7%)、「こんろ」42件(11.3%)、「電気機器」18件(4.8%)、「ストーブ」14件(3.8%)の順となりました。【図３】
前年同期と比べて「こんろ」14件（50.0%)、「たばこ」10件(17.9%)、「電気機器」１件(5.9%)の増加、「ストーブ」２件(△12.5%)の減少、「放火(疑いを含む)」は前年同期と同数になりました。

・住宅火災の出火原因は、「こんろ」32件(22.7%）が最多となり、次いで「たばこ」21件(14.9%)、「放火(疑いを含む)」20件(14.2%)、「ストーブ」13件(9.2%)「電気機器」９件(6.4%)の順となりました。【図４】
前年同期と比べて「こんろ」11件(52.4%)、「たばこ」２件(10.5%)、「ストーブ」１件（8.3%)、「電気機器」４件（80.0%）の増加、「放火(疑いを含む)」２件(△13.0%)の減少となりました。

・「こんろ」の出火に至る経過は、揚げ物等を調理中にその場を離れ、時間の経過とともに油温が上昇して出火するなど、こんろを使用中に放置する、忘れるケースが全体の３割を超えています。





(4)　火災による死者・負傷者

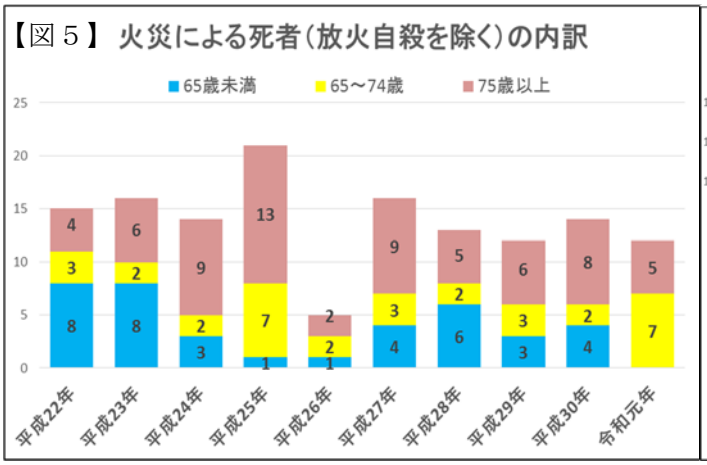
・火災による死者(放火自殺を除く)は12人で、前年同期より２人（△14.3%）の減少となりました。

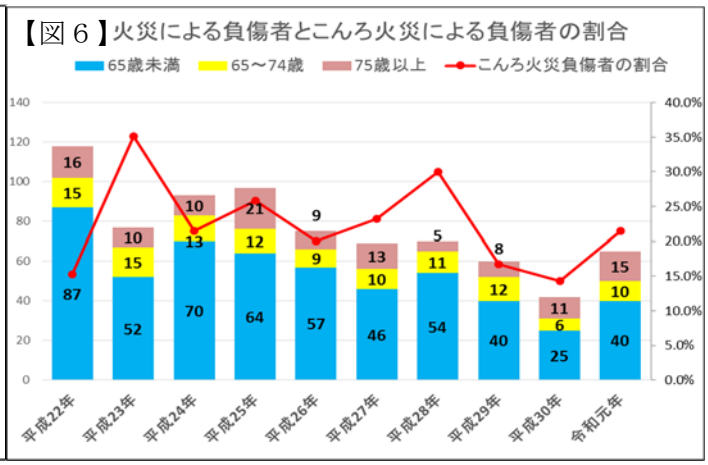
・火災による死者（放火自殺を除く）は全員が65歳以上の高齢者で、そのうち75歳以上の方は５人となりました。【図５】

・火災による負傷者は65人となり、前年同期より23人(54.8%)の増加となりました。

・負傷者が最も多く発生した火災の出火原因は「こんろ」によるもので、14人（21.5%）となり、前年同期より増加しています。【図６】

・こんろの炎が衣服に燃え移る被害（着衣着火）が増加しています。着衣着火による死者は２人、負傷者は８人で、前年同期より死者２人（200.0%)、負傷者４人（100.0%）の増加となりました。





火災による死者（放火自殺を除く）12 人のうち、住宅火災の死者は８人でした。うち、**<u>５人（62.5%）は住宅用火災警報器が未設置の世帯で発生しました</u>**。負傷者も含め、多くが発見の遅れ、逃げ遅れによるもので、火災を早く知るためには住宅用火災警報器の設置が有効です。

また、<u>火災による死者（放火自殺を除く）12 人のうち２人、火災による負傷者 65 人のうち 14 人はこんろによる火災で発生しています。調理油過熱防止装置や立ち消え安全装置、消し忘れ消火機能が標準装備されている Si センサーコンロの設置等による「こんろ火災」の防火対策を併せて行うことが必要です。</u>

横浜消防マスコットキャラクター
ハマくん

2　救急の概況（詳細は、別添資料２参照）

(1)　救急出場件数及び搬送人員

・令和元年上半期の救急出場件数は 102,138 件で、前年同期と比べて 3,291 件（3.3%）増加し、過去最多となりました。

・搬送人員も 87,766 人で、前年同期と比べて 2,474 人（2.9%）増加し、過去最多となりました。

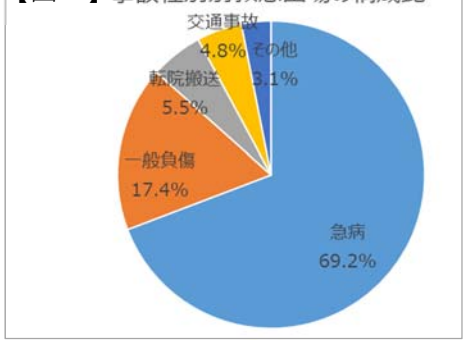
・１日あたりの平均救急出場件数は 564 件となり、前年同期と比べて 18 件増加しました。

(2)　事故種別別救急出場件数

・急病が全救急出場件数の 69.2%、一般負傷が 17.4%を占めました。【図７】

・前年同期と比べて、急病が 70,686 件で 2,993 件（4.4%）、一般負傷が 17,753 件で 342 件（2.0%）、転院搬送が 5,651 件で 25 件（0.4%）それぞれ増加しました。交通事故は 4,873 件で、80 件（△1.6%）減少しました。

【図７】事故種別別救急出場の構成比



(3)　発生行政区別救急出場件数

・救急出場件数が多い行政区は、港北区(8,274 件)、中区(8,021 件)、鶴見区(7,577 件)の順となりました。【図８】

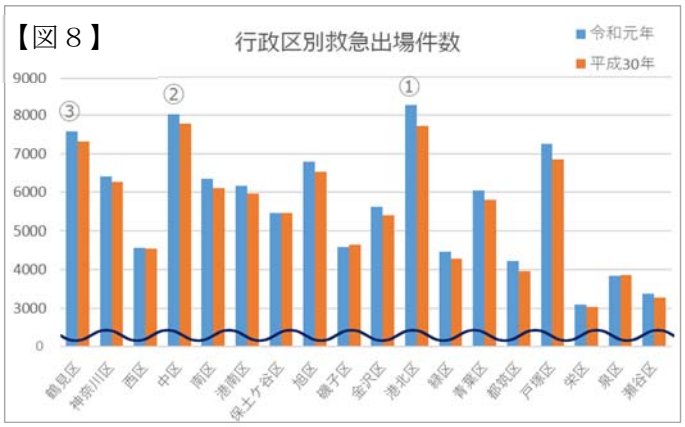
・前年同期と比べて保土ケ谷区、磯子区及び泉区は減少し、その他の行政区は増加しました。【図８】

(4)　月別救急出場件数

・月別の救急出場件数は、２月及び３月以外の月で前年同月より増加しました。【図９】

・１月は 20,886 件で、前年同期と比べて 1,473 件（7.6%）と大幅に増加し、その内訳をみると、急病が 1,383 件増加しました。

【図８】



【図９】

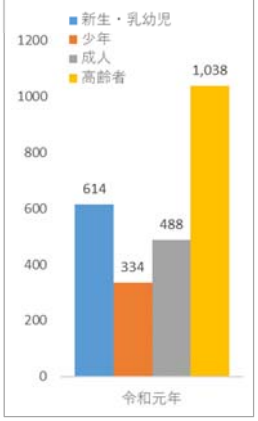
(5)　年代別搬送人員

・18 歳未満（少年、新生児・乳幼児）の搬送が大きく増加しました。【図 10】

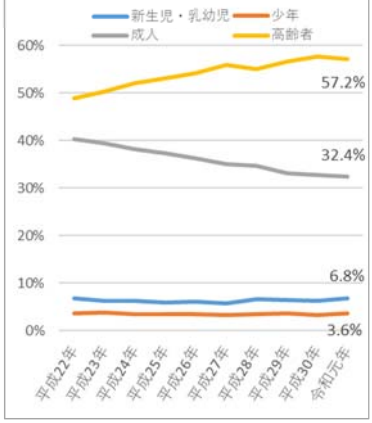
・前年同期と比べて、高齢者（65 歳以上）が 1,038 人（2.1%）、成人（18 歳以上 65 歳未満）が 488 人（1.7%）、少年（７歳以上 18 歳未満）が 334 人（11.8%）、新生児・乳幼児（７歳未満）が 614 人（11.4%）でそれぞれ増加しました。

・構成比でみると、高齢者が増加し、成人が減少する近年の傾向に大きな変化は見られませんでした。【図 11】

【図 10】年代別増加数



【図 11】年代別搬送人員の構成比



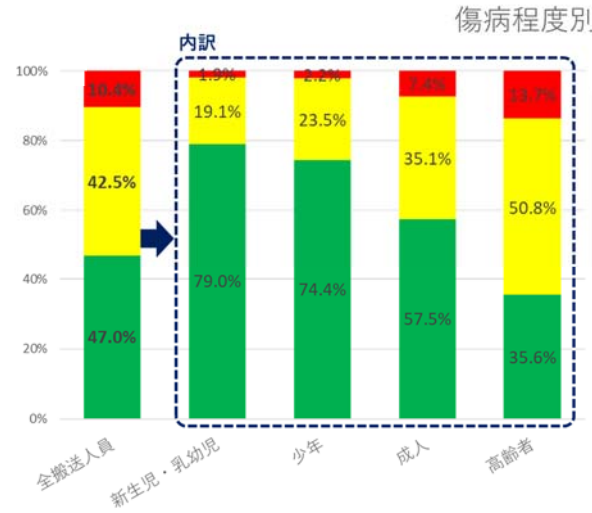
(6)　傷病程度別搬送人員

・搬送人員の傷病程度の内訳は、軽症及び中等症が増加しました。

・前年同期と比べて軽症が 771 人（1.9%）、中等症が 1,808 人（5.1%）増加し、重症以上が 104 人（△1.1%）減少しました。

・新生児・乳幼児、少年及び成人では、約６割以上が軽症であるのに対して、高齢者では、入院が必要となる中等症及び重症以上の占める割合が約６割以上となりました。【図 12】

【図 12】



<内訳>

	合計	軽症	中等症	重症以上	その他
合計	87,766	41,285	37,332	9,146	3
新生児･乳幼児	6,005	4,743	1,144	117	1
少年	3,158	2,349	741	68	-
成人	28,405	16,341	9,963	2,099	2
高齢者	50,198	17,852	25,484	6,862	-

■軽症：入院を要さないもの
■中等症：生命の危険はないが入院を要するもの
■重症以上：生命の危険のあるもの（初診時死亡を含む。）

これから本格的な夏が始まります。

昨夏の熱中症の救急搬送は、梅雨明け前では 30℃以上の真夏日に、梅雨が明けた７月では 35℃以上の猛暑日に増加。しかし、８月中旬以降は暑さに慣れたと考えられ、35℃以上を記録しても熱中症で搬送される方は少なくなる傾向となりました。

みなさん、熱中症になりやすい季節は「これから」です。

こまめな水分補給や

エアコンを使って室温管理　をするなど、熱中症にお気をつけください！

横浜消防マスコットキャラクター
ハマくん

■消防局からのお知らせ（消防局ホームページ）

「熱中症を予防しましょう！」

（https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/bousai-kyukyu-bohan/shobo/oshirase/heatstroke.html）

※熱中症搬送状況は、熱中症疑いも含まれます。
※令和元年搬送人員は速報値のため、後日変更する可能性があります。
※最高気温は、気象庁のデータを使用しています。

お問合せ先
（火災に関すること）　消防局予防課長　和知　治　Tel 045-334-6601
（救急に関すること）　消防局救急課長　安平　博　Tel 045-334-6771

火 災 概 況〈 速 報 〉

各年１月～6月

1　火災種別

単位：件

区分＼年別		令和元年（A）	平成30年（B）	前年比（A）－（B）	過去10年間の平均（平成21年～平成30年）（C）	増△減（A）－（C）
火災種別	火災件数	372	369	3	473	△101
	建物火災	228	202	26	270	△42
	住宅火災	141	131	10	177	△36
	林野火災	1	－	1	－	1
	車両火災	21	36	△15	37	△16
	船舶火災	1	1	－	1	－
	航空機火災	－	－	－	－	－
	その他の火災	121	130	△9	164	△43

2　主な出火原因

単位：件

区分＼年別		令和元年（A）	平成30年（B）	前年比（A）－（B）	過去10年間の平均（平成21年～平成30年）（C）	増△減（A）－（C）
主な原因	放火（疑いを含む）	96	96	－	135	△39
	たばこ	66	56	10	68	△2
	こんろ	42	28	14	49	△7
	電気機器	18	17	1	11	7
	ストーブ	14	16	△2	20	△6

3　損害

区分＼年別			令和元年（A）	平成30年（B）	前年比（A）－（B）	過去10年間の平均（平成21年～平成30年）（C）	増△減（A）－（C）
損害	焼損床面積（㎡）	建物火災	3,284	4,148	△864	4,507	△1,223
		住宅火災	1,612	2,024	△412	2,840	△1,228
	死者（人）		16	14	2	16	－
	放火自殺者		4	－	4	2	2
	負傷者（人）		65	42	23	80	△15

4　行政区別火災発生状況

単位：件

区分＼年別		令和元年（A）	平成30年（B）	前年比（A）－（B）	過去10年間の平均（平成21年～平成30年）（C）	増△減（A）－（C）
行政区	鶴見区	50	35	15	44	6
	神奈川区	26	34	△8	30	△4
	西区	10	16	△6	20	△10
	中区	31	28	3	43	△12
	南区	25	24	1	30	△5
	港南区	26	8	18	22	4
	保土ケ谷区	17	19	△2	22	△5
	旭区	21	23	△2	30	△9
	磯子区	12	13	△1	18	△6
	金沢区	14	13	1	23	△9
	港北区	41	33	8	41	－
	緑区	14	18	△4	23	△9
	青葉区	14	21	△7	23	△9
	都筑区	19	21	△2	22	△3
	戸塚区	22	24	△2	31	△9
	栄区	7	10	△3	11	△4
	泉区	12	16	△4	21	△9
	瀬谷区	11	13	△2	21	△10
合計		372	369	3	473	△101

備考　住宅火災件数は建物火災件数の内数。また、放火自殺者数は死者数の内数
過去10年間の平均の数値は小数点以下を四捨五入してあるので、合計と一致しない場合があります。

令和元年上半期の救急状況〈速報〉

1　救急出場件数

区　　分	令和元年	平成30年	増△減	増減率
救急出場件数	102,138	98,847	3,291	3.3%
1日あたりの件数	564	546	18	

2　事故種別別救急出場件数

区　　分		令和元年		平成30年		前年比較	
		出場件数	構成比	出場件数	構成比	増△減	増減率
合計		102,138	100.0%	98,847	100.0%	3,291	3.3%
事故種別	急病	70,686	69.2%	67,693	68.5%	2,993	4.4%
	一般負傷	17,753	17.4%	17,411	17.6%	342	2.0%
	転院搬送	5,651	5.5%	5,626	5.7%	25	0.4%
	交通事故	4,873	4.8%	4,953	5.0%	△80	△1.6%
	その他	3,175	3.1%	3,164	3.2%	11	0.3%

3　傷病程度別搬送人員

区　　分		令和元年		平成30年		前年比較	
		搬送人員	構成比	搬送人員	構成比	増△減	増減率
合計		87,766	100.0%	85,292	100.0%	2,474	2.9%
程度	軽症	41,285	47.0%	40,514	47.5%	771	1.9%
	中等症	37,332	42.5%	35,524	41.6%	1,808	5.1%
	重症以上	9,146	10.4%	9,250	10.8%	△104	△1.1%
	その他	3	0.0%	4	0.0%	△1	△25.0%

4　年代別搬送人員

区　　分		令和元年		平成30年		前年比較	
		搬送人員	構成比	搬送人員	構成比	増△減	増減率
合計		87,766	100.0%	85,292	100.0%	2,474	2.9%
年代	高齢者	50,198	57.2%	49,160	57.6%	1,038	2.1%
	成人	28,405	32.4%	27,917	32.7%	488	1.7%
	少年	3,158	3.6%	2,824	3.3%	334	11.8%
	新生児・乳幼児	6,005	6.8%	5,391	6.3%	614	11.4%

5　発生行政区別救急出場件数

区　　分		令和元年		平成30年		前年比較	
		出場件数	構成比	出場件数	構成比	増△減	増減率
合計		102,138	100.0%	98,847	100.0%	3,291	3.3%
行政区	鶴見	7,577	7.4%	7,317	7.4%	260	3.6%
	神奈川	6,399	6.3%	6,268	6.3%	131	2.1%
	西	4,576	4.5%	4,559	4.6%	17	0.4%
	中	8,021	7.9%	7,782	7.9%	239	3.1%
	南	6,349	6.2%	6,111	6.2%	238	3.9%
	港南	6,164	6.0%	5,970	6.0%	194	3.2%
	保土ケ谷	5,452	5.3%	5,462	5.5%	△10	△0.2%
	旭	6,791	6.6%	6,524	6.6%	267	4.1%
	磯子	4,584	4.5%	4,654	4.7%	△70	△1.5%
	金沢	5,613	5.5%	5,395	5.5%	218	4.0%
	港北	8,274	8.1%	7,712	7.8%	562	7.3%
	緑	4,461	4.4%	4,295	4.3%	166	3.9%
	青葉	6,039	5.9%	5,792	5.9%	247	4.3%
	都筑	4,225	4.1%	3,957	4.0%	268	6.8%
	戸塚	7,260	7.1%	6,847	6.9%	413	6.0%
	栄	3,102	3.0%	3,029	3.1%	73	2.4%
	泉	3,841	3.8%	3,872	3.9%	△31	△0.8%
	瀬谷	3,376	3.3%	3,283	3.3%	93	2.8%
	市外	34	0.0%	18	0.0%	16	88.9%

6　月別救急出場件数

区　　分	令和元年		平成30年		前年比較	
	出場件数	構成比	出場件数	構成比	増△減	増減率
合計	102,138	100.0%	98,847	100.0%	3,291	3.3%
1月	20,886	20.4%	19,413	19.6%	1,473	7.6%
2月	15,685	15.4%	16,539	16.7%	△854	△5.2%
3月	16,275	15.9%	16,396	16.6%	△121	△0.7%
4月	16,440	16.1%	15,277	15.5%	1,163	7.6%
5月	16,593	16.2%	15,614	15.8%	979	6.3%
6月	16,259	15.9%	15,608	15.8%	651	4.2%

※すべての表の構成比は少数第２位を四捨五入しているため合計が100%にならない場合があります。